



GROWTH TOKYO

2026 年 7 月 17 日

各 位

会 社 名 株式会社環境フレンドリーホールディングス
代表者名 代表取締役社長 車 陸昭
(コード：3777、東証グロース)
問合せ先 経営企画室 室長 松澤 増満
(TEL. 03-6261-0081)

苫小牧 AI データセンター第 I 期（供給能力 10MW）に係る優先交渉権付与に関する 基本合意書（MOU）締結のお知らせ

当社は、2026 年 7 月 17 日開催の取締役会において、当社の連結子会社である A I T e c h T o m a k o m a i 株式会社（以下「ATT」といいます。）が、北海道苫小牧市において推進する AI データセンター事業について、欧州の AI クラウドサービス事業者である Verda Cloud Oy（以下「Verda 社」といいます。）との間で、第 I 期（供給能力 10MW）を対象とした、データセンターリース契約（以下「最終契約」といいます。）を本 MOU 発効日から 1 か月から 1.5 か月以内（双方が誠実な協議を継続している場合には、双方の書面通知により 30 日延長可能）に締結に向け合理的な努力を行うことを前提に、Verda 社へ優先交渉権を付与する基本合意書（Memorandum of Understanding、以下「本 MOU」といいます。）を締結することを決議いたしましたので、お知らせいたします。

本 MOU は、当社グループが推進する苫小牧 AI データセンター事業において、海外 AI クラウドサービス事業者との初めての最終契約締結に向けた優先交渉権付与に関する基本合意であり、当社グループが整備を進めてきた AI インフラに対する最初の具体的な需要形成に向けた重要な一歩となるものです。当社は、本件を AI データセンター事業の事業化に向けた重要なマイルストーンと位置付けております。本 MOU は ATT が締結主体となりますが、本件は当社グループの AI インフラ事業における重要な案件であることから、当社において取締役会決議を行い、開示するものです。

1. 本 MOU 締結の背景

AI の急速な普及に伴い、GPU を活用した高性能コンピューティング需要は世界的に拡大しており、AI クラウドサービス事業者による計算基盤の確保は重要な経営課題となっています。一方、大規模 AI データセンターの構築には、多量かつ安定した電力供給、十分な用地、冷却効率に優れた立地環境などが求められることから、これらの条件を満たす拠点は世界的にも限られています。

当社グループは、このような市場環境を踏まえ、北海道苫小牧市において AI データセンター事業を推進しており、第 I 期（供給能力 10MW）及び第 II 期（供給能力 50MW）の二段階による整備を計画しております。

今般、ATT は、欧州において AI クラウドサービスを展開する Verda Cloud Oy との間で、第 I 期を対象とした最終契約締結に向けた優先交渉権付与に関する基本合意に至りました。

2. Verda 社の概要及び本 MOU 締結の経緯

Verda 社は、フィンランド・ヘルシンキを拠点とする AI クラウドサービスを提供するテクノロジー企業であり、欧州を中心に AI 計算基盤を提供しております。同社は近年、欧州の投資家及び金融機関から大型の資金調達を実施し、AI 需要の拡大を背景に事業拡大を進めております。

【Verda 社の特徴】

- ・ NVIDIA 社の優先パートナーとして、最新世代 GPU への早期アクセス体制を有しております。
- ・ 過去、99.95%以上の稼働率を実績とする AI クラウドサービスを提供しております。
- ・ 再生可能エネルギー100%で稼働するデータセンターの運営実績を有しております。
- ・ 欧州で培った AI クラウドサービスの運営ノウハウを基盤として、アジア太平洋地域への事業展開を進めております。

このような事業基盤を有する Verda 社は、アジア太平洋地域における AI 計算基盤の確保を進める中で、ATT が推進する苫小牧 AI データセンター事業について協議を重ねた結果、本 MOU 締結に至りました。

当社は、Verda 社が ATT の苫小牧 AI データセンターの安定した電力供給環境、冷涼な気候による高い冷却効率及び将来的な供給能力の拡張性を評価したことが、本 MOU 締結に至った主要因と考えております。

3. 本 MOU の概要

相手先	会社名	Verda Cloud Oy
	設立	2018 年
	本社所在地	Sanomatalo, Toolonlahdenkatu 2, 00100 Helsinki, Finland
	代表者	創業者兼 CEO Ruben Bryon、COO Jorge Santos
	事業内容	フィンランド・ヘルシンキを拠点とする AI クラウドサービスを提供するテクノロジー企業
	上場会社との関係	該当事項はありません。
契約対象		AI データセンターコロケーションサービス
対象施設		苫小牧 AI データセンター第 I 期
対象容量		供給能力 10MW（第 I 期供給能力全量）
契約形態		最終契約締結に向けた優先交渉権付与に関する基本合意書
予約保証金		500 万米ドル
保証金の充当		最終契約締結時に、コロケーション利用料（Service Fee）の 6 か月分に相当する保証金の一部として充当
保証金の返還		最終契約が締結されなかった場合は、本 MOU の定めに従い返還等を行う（※）
利用開始目標		第 I 期稼働開始後（予定）
最終契約締結目標		本 MOU 発効日から 1 か月から 1.5 か月以内（双方が誠実な協議を継続している場合には、双方の書面通知により 30 日延長可能）
引渡し期限		最終契約締結後 4 か月以内（予定）

今後協議事項	利用開始時期、契約期間、利用料金等
法的拘束力	一部条項を除き拘束力なし

※ 最終契約が締結されなかった場合は、本 MOU の定めに従い、Verda 社の責めに帰すべき事由による場合は ATT が 100 万米ドルを受領し、残額 400 万米ドルを返還し、それ以外の場合は 500 万米ドル全額を返還します。

4. 本 MOU の戦略的意義

(1) 供給基盤の整備から需要創出への移行

当社グループはこれまで、北海道苫小牧市において土地取得、電力インフラ整備及び AI データセンター建設等を通じ、AI インフラの供給基盤構築を段階的に整備してまいりました。

本 MOU は、第 I 期（供給能力 10MW）を対象として、海外 AI クラウドサービス事業者との間で、最終契約締結に向けた優先交渉権付与に関する基本合意に至ったものであり、当社グループが整備を進めてきた供給基盤に対する最初の具体的な需要形成となるものです。

当社は、本件を AI データセンター事業の事業化に向けた重要なマイルストーンと位置付けております。

(2) 第 I 期（10MW）の位置付け

第 I 期（供給能力 10MW）は、当社グループの AI データセンター事業における最初の商用フェーズとして位置付けております。

本 MOU の主なポイントは以下のとおりです。

- 対象容量 : 供給能力 10MW（第 I 期全量）
 - AI 計算基盤 : 最新世代の高性能 GPU サーバー数千基規模を収容可能
 - 予約保証金 : 500 万米ドル
 - 保証金の充当 : 最終契約締結時に、コロケーション利用料（Service Fee）の 6 か月分に相当する保証金の一部として充当予定
 - 保証金の返還 : 最終契約が締結されなかった場合は、本 MOU の定めに従い返還等を行う
 - 契約位置付け : 当社グループにとって初めての最終契約締結に向けた優先交渉権付与に関する基本合意
- 本 MOU は、第 I 期（供給能力 10MW）の全量を対象として、AI データセンター利用に係る最終契約締結に向けた優先交渉権を付与する基本合意であり、当社グループにおける最初の需要形成に向けた重要な取り組みです。

(3) コロケーションを中心とした収益モデル

本事業は、利用者が調達・保有する GPU サーバー等の計算機材に対し、電力、ラック、冷却設備、ネットワーク等の AI データセンター基盤を提供するコロケーションサービスを主たる事業モデルとしております。当社グループは、ATT を主体として AI データセンターのインフラ運営を担い、利用者から継続的なコロケーション利用料を受領するストック型の収益モデルを採用しております。

(4) 第 II 期（50MW）計画について

当社グループは、第 I 期に続き、66kV 特別高圧受電設備の整備により、供給能力 50MW への拡張（第 II 期）を計画しております。

なお、本 MOU の対象は第 I 期（供給能力 10MW）のみであり、第 II 期は本 MOU の対象には含まれておりま

せん。第Ⅱ期（追加供給能力 40MW）については、2027 年 12 月の稼働開始を目標としており、今後の事業進捗及び需要動向等を踏まえ、別途需要家との協議を進めてまいります。

当社グループは、国内外の AI クラウドサービス事業者、GPU 事業者及びデータセンター利用企業との協議を継続し、AI インフラ事業の拡大を図ってまいります。

5. 当社 AI データセンター事業における位置付け

当社グループは、「GX×AI インフラ」を中長期的な成長戦略の柱の一つとして位置付けております。

本 MOU は、当社グループが推進する苫小牧 AI データセンター事業において、初めて具体的な需要形成に向けた基本合意に至った案件であり、今後の事業展開及び国内外の顧客基盤拡大に向けた重要な取組みと位置付けております。

本 MOU を契機として、AI データセンター事業の事業化を着実に推進するとともに、「GX×AI インフラ」戦略の実現を目指してまいります。



6. 今後の見通し

本 MOU は基本合意であり、現時点において利用料金、契約期間その他の主要条件は確定しておりません。

本 MOU に基づき、Verda 社に対し最終契約締結に向けた優先交渉権を付与しております。

最終契約については、本 MOU 発効日から 1 か月から 1.5 か月以内を目途として締結に向け合理的な努力を行うものとし、当該期間満了時点において双方が誠実な協議を継続している場合には、双方の書面通知により当該期間を 30 日間延長することができます。

なお、下記の参考試算は、本 MOU に定める利用料金と同条件で最終契約が締結され、第Ⅰ期（供給能力 10MW）が稼働した場合を前提として試算したものであり、現時点で業績予想に織り込まれているものではありません。

項目	第 I 期
供給能力	10MW
年間コロケーション利用料（参考試算）	約 24～25 億円

※ 上記試算はコロケーション利用料のみを前提とした参考試算です。

※ 本 MOU では、コロケーション利用料とは別に、実際の電力使用量に応じた電力料金（Electricity Charge：22 円/kWh（税抜））が定められておりますが、本参考試算には含んでおりません。

※ 上記は本 MOU の対象である第 I 期（供給能力 10MW）を前提とした参考試算です。

※ 将来の業績を保証するものではありません。

本件が 2026 年 12 月期連結業績に与える影響は現時点では未定ですが、本 MOU は当社グループが推進する AI データセンター事業における重要なマイルストーンであり、今後、最終契約の締結その他開示すべき事項が生じた場合には、速やかにお知らせいたします。

本 MOU は、当社グループが推進する AI データセンター事業において、供給基盤の整備に続く最初の具体的な需要形成を示す重要なマイルストーンです。

当社グループは、本 MOU を契機として国内外の需要家との協議を進め、「GX×AI インフラ」戦略の実現を通じて、AI インフラ事業の拡大及び企業価値の向上を目指してまいります。

以 上